

小牧宿をにぎわした小牧神明社の 三大祭

小牧祭(春祭)

初代藩主義直が小牧に来遊した時、牡丹の造花を下賜され、子供たちに持たせて踊らせたのが起こりである。その後子供歌舞伎による祭り、現在は子供による日本舞踊の披露で行われている。毎年4月の第2日曜日に行われており、最後に餅投げや菓子が振る舞われている。

昔は2台の山車が出て踊りが披露されたが、老朽化により、今は1台に合体されている。



子供歌舞伎(昭和初期)



山車上で披露される日本舞踊(現在)

秋葉祭

夏に行われるのが秋葉祭である。江戸時代から続く祭りで、山車が屋根神様の前でからくり奉納することから、宿場を火災から守ることを願っての祭りといわれている。昔は7月26日の曳き始め、27日の試楽(しんがく)、28日の本祭と3日間の祭りであったが、現在は8月20日前後の土・日曜日に行われている。

土曜日は宵祭で、山車の周りに提灯が飾られ町内を練り歩く様子は華やかである。午後8時頃にはラビオ前に集結する。そして8時半頃になると宵祭のクライマックスの「どんてん」(山車を持ち上げ車輪を軸に回転させる)が始まる。各町内ごとに何回まわせるのかを競うのは圧巻である。

日曜日は神明社に4台の山車が勢揃いし、順に境内でからくり奉納、どんてん等を披露し、郷倉に山車を収め祭りがおわる。



神明社に勢揃いした山車



どんてん

南宮・天王祭(オマント奉納神事)

五本棒オマント奉納神事は、初代藩主徳川義直が小牧村に下賜した五本棒を馬の塔鞍に飾り、義直自らが描いたという猿の絵を旗に仕立て、熱田神宮まで行進して奉納したのが起源といわれる。しかし、熱田詣での際に藩主下賜の絵をかさに乱暴狼藉が多く、神宮までの行進は禁止され、小牧宿内での祭りになった。

東町の五本棒オマントを中心に、各地区が馬の塔(オマント=飾り馬)を出し、奉納した。この祭は、戦後まで盛大に行われてきたが、農耕馬の減少とともにオマントの奉納は衰退し、最近では、東町の五本棒オマントだけとなった。現在も町内を練り歩いた各地区の獅子頭は東町のオマントが入場するのを待ってからしか神明社の境内に入場できないことになっている。



五本棒オマント



神明社の境内を回る東町のオマント

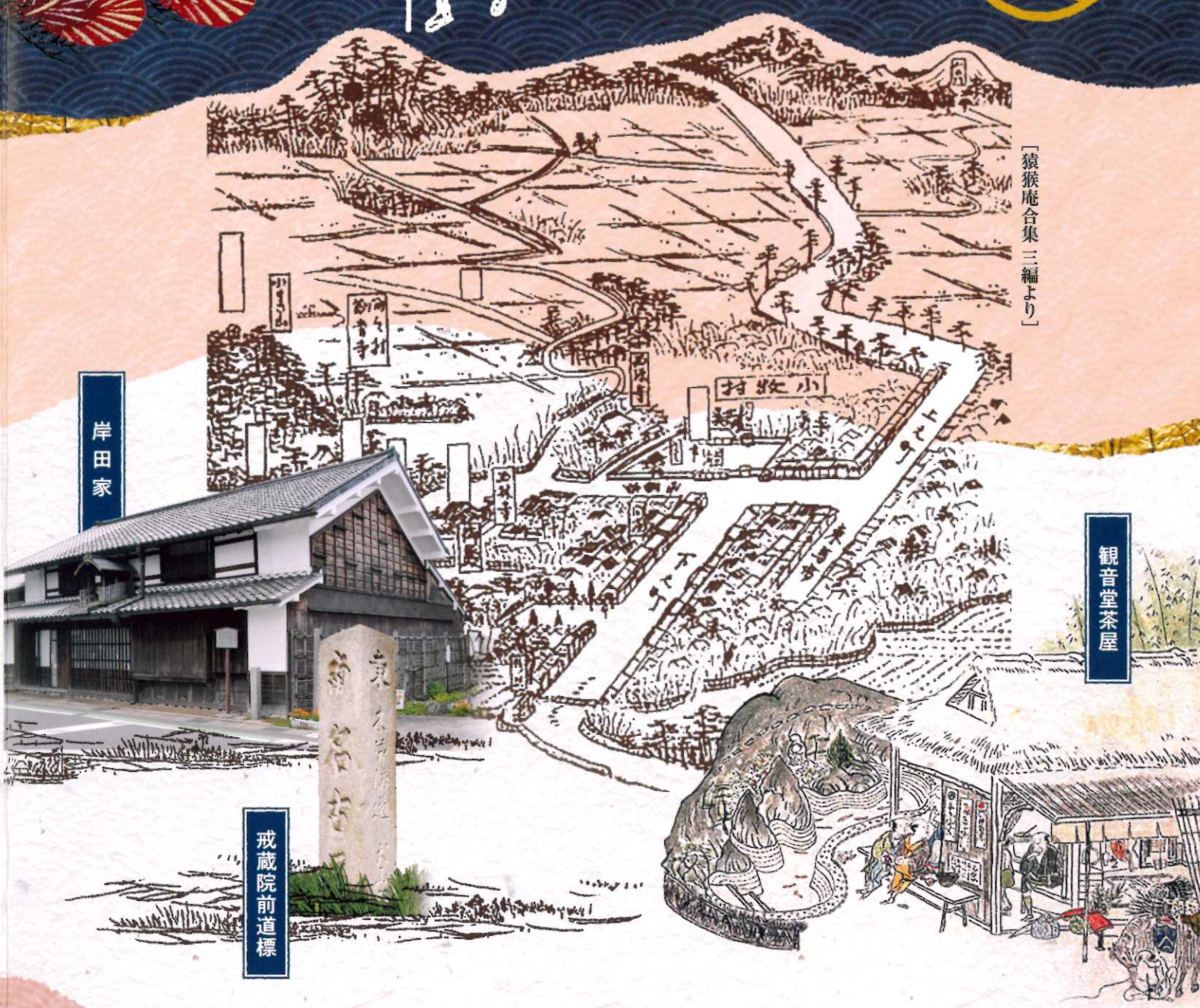
※三大祭で使われる山車や神事は、小牧市指定民俗文化財となっている。



Komaki

小牧の旧道 ガイドマップ

上街道



【猿猴庵合集三編より】

岸田家

観音堂茶屋

戒蔵院前道標

編集/愛知文教大学地域連携センター

小牧市文化財地図作成委員会

委員: 加藤憲吾、酒向道夫、篠田 徹、西川菊次郎、水野 弘

事務局: 宮崎貴光

発行/小牧市教育委員会 小牧市堀の内三丁目1番地



令和3年3月31日

小牧市教育委員会

今も残る小牧宿の屋根神様

小牧には多くの屋根神様が現存している。江戸時代、宿場の家並みはほとんどが萱葺き屋根に木造で、狭い間口の家が並んでいたため、一旦火事になるとすぐに燃え移り大火になった。実際に江戸年間に町を焼きつくす大火が4回あったといわれている。そのため、火事を防ぐ神様「秋葉神社」のお札を入れた祠を屋根に上げて町内ごとに大切に祀ってきた。これが屋根神様である。

現在町内に残っている屋根神様は9基であり、中には屋根から下ろされているものや現代風に造りかえられているものもあるがひとつの宿場町にこれだけ多く現存しているのは珍しい。昔は上之町・中町・下之町それぞれの上・中・下にあったといわれる。なお横町にはないが、横町の戒蔵院の本尊が火伏せの観音様であるためといわれる。毎年、役員が静岡県袋井市にある可睡斎の秋葉神社のお札を手に入れた町内の秋葉社に納めるようにしている。最近では熱田社や津島社

などのお札も一緒に納めるようになった。屋根神様は、正月春祭・秋葉祭、秋のオマントの時にはきれいに飾られ、山車が出る秋葉祭には山車からくりの奉納が行われる。



1 片町



2 上之町・上



3 七軒町



4 上之町・下



5 中町・中



6 中町・下



7 下之町・上



8 下之町・中



9 下之町・下



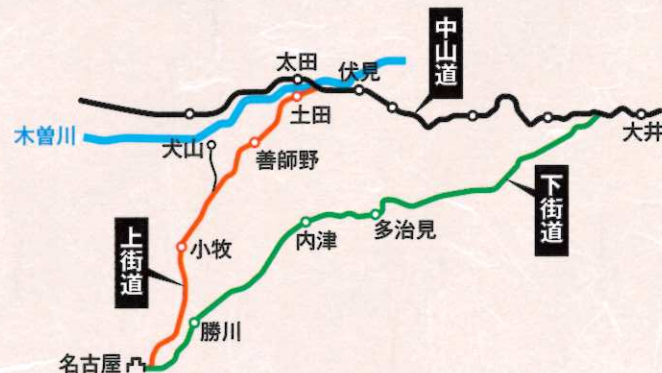
火伏観音といわれる十一面観音がある横町の戒蔵院



上街道は木曾路への公道であつた

尾張徳川家は木曾の山が御領林となったことで山林経営を効率的に運営するために、中山道と名古屋を結ぶ街道の整備が必要となった。それが上(うわ)街道である。木曾街道ともいう。上街道は当時進められていた五街道の整備をより発展させるためだけに中山道を利用した。ルートとしては御嵩(みたけ)の伏見宿で中山道と合流し、その間に小牧・善師野・土田(どた)の3つの宿場を設けた。

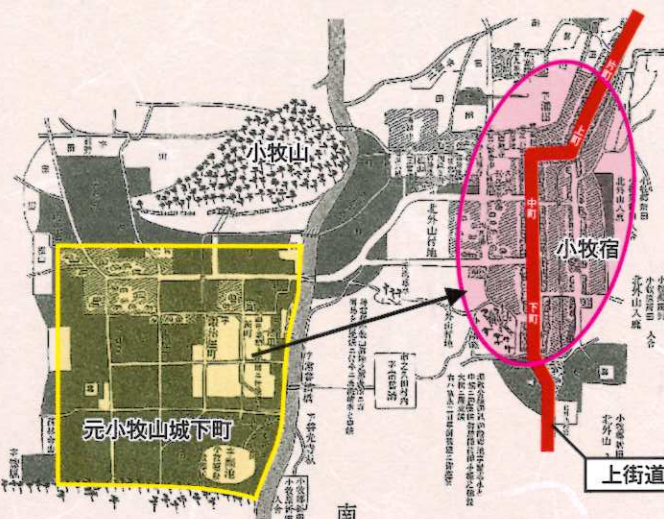
上街道は尾張徳川家が独自で切り開いた脇街道で、五街道に準じて二里塚や松並木なども整備し、役人が御用のために使う場合上街道以外の道は使えなかった。それに對し今の国道19号に沿った下(した)街道は平坦なところが多く、険しい山道の多い上街道は公道といえども嫌われがちで、一般客の往来は下街道の方が賑わった。そのため通行客の減少で宿場経営が苦しくなった善師野宿の住民は下街道の通行制限を尾張藩に陳情することがあった。



小牧宿はいつ造られたのか？

小牧宿は、上街道整備に伴い、原野であった小牧山東部の地に計画的に造った宿場町である。それまでの小牧の中心は小牧山の南麓一帯で、永禄6年(一五六三)織田信長が清須より居城を小牧山城に移した際に整備した小牧山城下町部分である。信長がわずか4年で稲葉山城に移り、家来の武士団や職人なども一緒に移転したため、城下町の面影はほとんどなくなっていた。

宿場の造営は、当時尾張藩の付家老であった成瀬隼人正を通じて小牧村の庄屋だった江崎善左衛門宗度に命じられ、元和9年(一六三三)に始まった。寛永11年(一六三四)ころには、宿駅もほぼ整い、寛永13年には初めて上街道を通つての参勤交代も行われたのである。なお江崎家はその後宿場の本陣を務めることとなった。



※小牧市史資料編2 天保12年小牧村絵図解説図より一部加筆



1 神明社



村社。祭神は大日靈女命(おおひれいめのみこと)。創建は寛文7年(1667)と伝えられる。春日寺会館に社務所がある。拝殿の奥に神明造りの本殿がある。境内に御嶽社・弁天社が祀られている。

2 春日寺



曹洞宗。寺の名が地名となっている。西行の伝承があり、かつて西の丘にあった西行堂跡の石碑は寺の庭に移されている。

3 三十三観音



以前は屋根付きの小堂の中に36体の石仏が納められていたが、区画整理に伴い近くにある霊園の北西の一角に移された。墓地は上街道の丁字路を西に曲がる坂の上に造られている。

7 愛知相撲追善記念碑

小牧は古くから相撲の盛んな土地柄であり、明治時代以後も盛んに愛知相撲の興業が行われ、多くの郷土力士を輩出した。活躍した力士たちの追善記念碑が故津田応助氏の揮毫により建立された。

4 天神社



旧外山村の古い神社。以前は泉があり旅人が休憩したといわれる。境内には農業に貢献した「鈴木勇右衛門碑」がある。

5 外山神社



式内社・郷社。祭神は天照大神ほか。境内には御嶽信仰の霊神の碑が14基集められている。大正4年(1915)東側から銅鐸が出土した。西には県道と合流した街道に戦後まで松並木がつづいていたが今はない。

6 馬頭観音



戦後、県道が広くなり交通事故が多発したのは、近くにあった馬塚の祟りと恐れた地区住民は、昭和33年(1958)死者を悼み馬頭観音を祀った。馬頭身守り観音様として御詠歌も奉納されている。

12 地藏堂・馬頭観音



小牧宿への出入口に当たるこの辺りには、生活や通行の安全を祈り、地藏堂や馬頭観音が多く祀られていた。すぐ右手には、かつて屋根の上にあった下之町下の秋葉社(屋根神様)が祀られている。

13 岸田家



小牧宿脇本陣の岸田家。脇本陣とは本陣を補佐する施設である。市有形民俗文化財。平成12年・13年(2000・2001)に江戸時代後期の姿に修復・復元された。



8 神明社



かつては大きな神社であったが、明治時代になり外山神社に合祀され、その後再興された。平成28年(2016)の区画整理に伴い、少し北に移動され、現在の地に新たに建てられた。

9 西行法師の歌碑



「桜井」の地名は、西行法師の歌「小芹つむ沢の水のひまたえて春めきそむる桜井の里」に由来するとの言い伝えがあり、地元の人たちが歌碑を建てた。かつては桜井交差点の東北角にあった。

10 神明社(三十番神宮)



地元では「おばんじん」と呼ばれ、親神堂として創建され、30の神様が鎮座していたと言われる。昭和28年(1953)近くにあった神明社と合祀された。

11 啓運寺・高札場跡の碑



日蓮宗。山門をくぐると左手に高札場跡の石碑がある。江戸時代、この辺りに高札場があったことが記されている。少し南には、かつて小牧宿の南木戸があったと言われている。

18 清須道起点



清須道は、織田信長が拠点清須から小牧に移した際に整備された。江戸時代になり宿場町移転に伴い、これまでの道を延長して上街道と結ぶ起点になった場所である。

19 戒蔵院



真言宗。上街道の曲がり角に位置する。門前には街道の道標がある。院内には木造十一面観音菩薩立像(火伏観音)が安置されている。(一般非公開)

20 西源寺



真宗。境内に「国手栗崎常慶寿碑」がある。江戸時代末期、小針入鹿新田に代々医者である栗崎家があり、ここの「保童丹」は小児病の妙薬として有名であった。

14 福祿寿石造物



岸田家の隣に福祿寿石造がある。この付近から西の広大な敷地に小牧御殿(代官所)があり、江戸時代その代官所付近に置かれていたとされている。福祿寿は七福神の一つである。

15 小牧御殿跡・龍神



⑭の福祿寿石造から西へ100m程の所に小牧御殿跡がある。寛永2年(1625)に藩主徳川義直が鷹狩りをする際、庄屋、江崎善左衛門の蟹清水屋敷を御殿としたのが始まり。現在は龍神が奉られている。

16 蟹清水砦跡



⑮小牧御殿跡の向かい側にその砦跡がある。永禄6年(1563)丹羽長秀が小牧山城築城移転の際に、館を建てたとされている。天正12年(1584)小牧・長久手の戦いの時、徳川方の砦となった。

17 本陣跡



小牧宿本陣があった所であるが、その面影は残っていない。本陣は、江戸時代藩主が宿泊した施設であり、代々江崎家がその役目を担っていた。

28 馬頭観音ほか石仏祠



県道に面した祠の中には天明年間の馬頭観音・弘法大師・地藏菩薩などの石仏が祀られ地域や道行く人々に親しまれている。

29 落合新八郎宗親の墓



上末村の戦国浪人・落合新八郎宗親は同志6人と共に藩の保護を得て犬山市の入鹿池を構築し、原野であった小牧原を開墾して苗字・帯刀を許された。落合家子孫による顕彰の石碑も建っている。

30 一里塚(藤塚)の案内板



中区札の辻より4里(12km)には藤塚の一里塚があったが、現在は面影もない。表札は新木津用水に懸る筋違橋の南西角附近に移されている。新木津用水の川湊には県天然記念物の藤棚や茶店があった。茶店は、今は無い。

31 馬頭観音ほか



県道沿いに馬頭観音などの石仏群が並んでいる。「新四国八十八所」の道標はこの奥の久保山中腹に立つ久保寺(曹洞宗)の案内標。久保寺は神仏分離令以前まで日蓮神社祭礼に関わっていたと伝えられる。

32 田縣神社



式内社。祭神は玉姫神。五穀豊穡・家業繁栄・開拓の祖神として崇められてきた歴史ある神社。毎年3月15日の豊年祭は天下の奇祭として有名である。市指定文化財。社伝左手奥には珍宝窟と奥宮がある。

21 西林寺



浄土宗。山門は徳川家の菩提寺である建中寺の霊廟にあった門が移築されている。境内には2.26事件で暗殺された教育総監陸軍大将、渡辺錠太郎の銅像がある。

22 西町の稲荷堂



明治時代の初めに建中寺の霊廟を移築した物である。住民の願いにより明治34年(1901)に豊川稲荷を勧請した。内部の天井や壁の内装から当時の様子がうかがえる。(内部非公開)

23 玉林寺



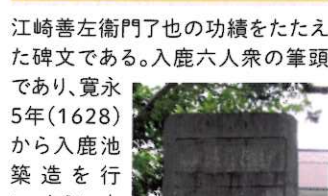
曹洞宗。門前には小牧山城築城時に信長が招いた連歌師里村紹巴の句碑が残っているが、判読は難しい。

24 小牧神明社



永禄6年(1563)信長が小牧山城築城の際、鬼門の社としてつくられた。この神社では、毎年小牧祭、秋葉祭、南宮・天王祭が行われる。(裏表紙参照)また、境内には、御神馬像や連理木の楠、市神の石碑などがある。

25 江崎善左衛門頌徳碑



江崎善左衛門了也の功績をたたえた碑文である。入鹿六人衆の筆頭であり、寛永5年(1628)から入鹿池築造を行い、さらに木津用水開削など新田開発に多大な功績を残している。

26 江崎氏頌徳碑



昭和11年(1936)に江崎健三が旧邸宅跡に公会堂(朝日会館)を建築し小牧町に寄付した。小牧町は江崎家代々の功績をたたえこの碑を建てた。昭和60年(1985)小牧駅東土地区画整理により現在の位置に移転された。

27 黒須雲神社



伊吹山の疫神と戦い命を落としたヤマトタケルを祀った三重県の能褒野神社の祭神を、小牧の氏子の総意で昭和11年(1936)に勧請した神社。境内の「おはつ稲荷」や隣接地には弘法堂がある。

33 南宮大社・秋葉社ほか



上街道のうち小牧・犬山の市境に近い県道沿いに、南面して三つの祠が並んでいる。この付近は交通事故が多い地点のため、交通安全祈願の石地蔵が近くにある。楽田までの旧道がよく残っている。